

特集

「病態関連図」をおもしろく！

病態関連図を学生さんたちはしっかり書いているでしょうか？
そして、「おもしろく」書いているでしょうか？

患者さんに関する情報の関連を示した図である病態関連図は、入手した情報を整理し、これから看護する患者さんの全体像を把握するのにとても便利なものです。特に初めての実習において看護過程を展開するのに役立つため、多くの学校で取り入れられています。ただそんななか、「病態関連図は苦手！」という学生の声は珍しくありません。

本来「図」というものは、なんらかの情報を得て、それをまとめるのに、文字だけを書き連ねるよりも、その情報どうしがいかに有機的に結びついているかの理解を助けてくれるものなので、わかりやすいはず。それが苦手とされるには、なんらかの理由があるはずです。

今回の特集では、本来学生のためになるはずの病態関連図作成が好まれないわけと、その解決法を探り、図の作成や読み解きが楽しくなるような指導法を模索します。さらには、「病態関連」にこだわらず、他の形式での図作成にトライするという選択肢も提案します。いずれにしろ、学生がそこに「おもしろさ」を見出してくれさえすれば、患者さんの理解はよりいっそう進むことと思います。